日本語学習者の理解程度に現れる母語の影響
—バイリンガルとモノリンガルの比較を通して—

劉　永亮

1. はじめに

国際交流基金(2007)は、「日本語能力試験」の結果を海外と日本国内に分け、さらに母語別に分類して分析している。その結果、受験者の得点[2]（標準得点による）に関して、ヨーロッパ系の受験者において聴解得点が中国語系の受験者の聴解得点より高いが、文字・語彙、読解・文法の得点は中国語系の受験者の方が高いという結果が出ている。このことから中国人日本語学習者にとって、日本語学習の４技能のうち聴解能力が一番低いことがうかがえる。

上記の国際交流基金(2007)の母語分類は、必ずしも母語で受験者を分けて分析しているわけではなく、むしろ国籍で大体の母語を分けているに過ぎない。

劉（2011）は中国人学習者を母語別に分け、日本語の聴解テストを行った。その結果、母語別の正答率に差が生じ、理解過程に母語の影響があることが分かった。しかし、調査対象者は中国国内の日本語学習者だけにとどまり、日本にいる学習者について触れていない。

本論では、日本に在住している中国人学習者を日常生活で使用する言語によって二つのグループに分け、調査対象者とする。具体的にはモンゴル語・北京語のバイリンガルおよび中国語のモノリンガルを取り上げる。そのうえで、両グループにおける聴解テストの正答率に差が生じるかを調べ、その要因を探る。

2. 先行研究

聴解テストに関する島田(2006、2009)の研究では、「選択肢の提示形式」が聴解テストの結果に影響を与えると述べたが、母語の影響に関しては言及していない。

聴解過程に関しては、主に聴解過程で使用されたストラテジーに関する研究が行われている(古川他 1992、水田（1995、1996）、尹 2001)。それらは主に、聞き手がどのようなストラテジーを使って聴いているか、どのようなストラテジーが有効であるか、どのような聴解指導を行えばよいか、と言う点を述べている。しかし、それは、理解に至るまでの過程でどのような問題が起きているかに関しては述べていない。

---

[1]日本語能力試験の受験者を母語によって（1）アルタイ・インドタイプ（主としてSOV、後置詞、形容詞＋名詞）、(2) 東アジア・ヨーロッパ・アフリカ　タイプ（主としてSVO、前置詞）、(3) 太平洋タイプ（主としてVSO、前置詞、名詞＋形容詞）、(4) フィンランド語　タイプ（主としてSVO、後置詞、形容詞＋名詞）(5) マラガシ語（VOS、前置詞、名詞＋形容詞）(6) グルジア語（SOV／SVO、後置詞、形容詞＋名詞）(7) 不明と分類した。また、1991年から漢字圏と非漢字圏を分けるために、東アジア系から中国語を分離して「SVO中国語系」と分けた(国際交流基金2007により)

[2] 2004年度の日本語能力試験の２級の母語グループ別平均点（標準得点による）を例としてあげた（国際交流基金2007)。

3. 研究概要

3.1 研究の目的と調査方法

本論では日本に在住するモンゴル語が母語であるモンゴル語・北京語のバイリンガル(以後、BS：Bilingual Student)[3]日本語学習者と中国語のモノリンガル[4]（以後、MS：Monolingual Student)日本語学習者を両グループに分け、聴解過程に注目し、聞き取り上にどのような問題が起きているか、その問題を処理するためにどのようなストラテジーを使用しているか考察する。調査方法として発話思考法を用い、被験者がそれぞれどのように聴解問題を解いているか、どのように解答を選んでいるかを、プロトコル分析を通して明らかにする。また、聴解過程でどのような問題が起きているかを分析し、その問題をどのように処理しているかを明らかにする。

3.2 調査対象者と調査内容

調査対象者は関東にある日本語学校の中級クラスで勉強している留学生 12 名（内訳 BS6 名、MS6 名）である。今回は『TMU 聴解テスト』[5]の中から劉（2010）で両グループにおいて正答率に差が生じた 9 項目[6]を利用した。表 1 では協力者の簡単な情報を示す。

表 1　協力者のプロフィル

在留地域	母語グループ	被験者番号	学習歴など
日本	バイリンガル	BS1～BS6	来日前の日本語の能力は能力試験 N5 程度である。調査時点で 12 名はすべて中級クラス（N2 レベルを目指している）に在学していた。日本語学習時間は調査時点で 700 時間～730 時間である。
	モノリンガル	MS1～MS6	

3.3 調査手順

今回のプロトコル調査は海保・原田（1993）を参考にした。実施時間は、練習セッションを含め、1 人当たりおよそ 1 時間である。まず、プロトコルデータを収集する前に発話思考法とは何かを説明した。そして、声を出す練習として用意した計算問題を被験者がどのように解いているかを声に出しながら練習してもらった。また、実際

---

[3] モンゴル語を母語とし、北京語を第二言語とする中国籍モンゴル人学習者で家庭では普段モンゴル語を使用し、社会に出るとモンゴル語と中国語の両言語を使用しているのでバイリンガルと名付けた。

[4] 本研究では中国北方方言話者を取り上げた。

[5] 本来、日本語能力試験の過去問題を使用するのが理想的であるが、過去問題はすでに市販されているため、学習者はすでにそれらに触れている可能性が高い。そこで、神村・劉ら（2010）の首都大学東京留学生用のプレースメントテスト『TMU 聴解テスト』を用いた。『TMU 聴解テスト』は日本語能力試験をモデルに作成された TMU オリジナルであり、聴解問題の妥当性と信頼性が充分確認されたものである。2014 年から公開されている。http://nihongo.hum.tmu.ac.jp/mic-j/

[6] 劉（2010）では聴解テストに 30 項目を用いて調査を行った。その中、項目 1、項目 2、項目 3、項目 4、項目 9、項目 16、項目 20、項目 26、項目 30 が両グループの平均値に有意差が見られた。

のプロトコルデータ収集セッションでは、調査の目的を説明した。

3.4　プロトコルデータ分析の手順

以下の手順でデータの分析を行った。

(1) 発話をすべて文字化した。発話思考法データ収集では、被験者の多くは自分の母語を使用し、自分の母語で適切に表現できない語句のみを日本語で表現していた。そのため被験者の母語を文字化し、その後日本語訳を付けた。日本語訳に関しては長年日本語教育に携わっている日本語教育博士課程の大学院院生 1 名にチェックしてもらった。

(2) 発話思考法データから、BS と MS 両者が聴解テストを聞いて、解答を導くまでに起きている諸問題を探り、その特定された問題はなぜ起きているかを分類し、両者を比較して分析した。

(3) 水田（1995）の基準に従い、被験者のプロトコルから解答を導くために働くストラテジーを抽出した。

4. 結果

表 2 に示すように、母語別の聴解テストの得点の平均値の差を、t 検定を用いて行った結果「$p<.05$」で有意差が見られた。つまり、BS のほうが MS より聞き取り能力が高いと考えられる。

表 2　BS と MS の 9 項目の基本的統計量

母語クループ	被験者数 (N)	項目数	平均値	標準偏差	t 値
BS	6	9	7.2	1.14	2.033
MS	6	9	6.0	1.53	

4.1　特定された問題の原因とその分類

聴解過程で聞き取れない問題が生じたときに報告された「問題特定」に関して劉（2011）を参考にし、聴解問題の構造の観点から上位分類として「課題の理解」、「内容の理解」、「ポイントの理解」[7]、「選択肢の理解」という 4 段階に分類した。さらに、下位分類としてその原因によって、「音声レベル」、「語彙レベル」、「音韻・語彙統合レベル」、「談話統語レベル」との 4 レベルに分類した。詳細は表 3 を参照されたい。

分類と定義に当たって、12 人のデータを母語別に扱い、それぞれ 2 人の判定者[8]が

---

[7] 『日本語能力試験出題基準』(2002) によると聴解テストの測られる能力の一つとして不必要な細部にこだわらず、重要な部分に焦点を当てて聴くなどの聴くためのストラテジーを駆使する能力である。そのため、正解に直接導くキーワード、つまり課題が示されている部分、または、正解が明示されたり、暗示されたりしている部分を「内容の理解」の問題特定から分けることにした。

[8] モノリンガルの判定者は筆者と日本語教育経験が長い博士課程の大学院院生（中国語母語話者）の２名。バイリンガルの判定者は筆者自身と日本語学習歴 10 年以上の、教育学を専攻する博士課程の大

判定を行った。判定者の意見が一致するまで討論し、専門家の助言を得たうえで分類した。グループ別判定者の一致率は90%以上である。

表3　問題特定の定義と分類

上位分類とその定義	課題の理解：聴解問題の課題が分からなかったため、どこに注意を払って聞けばよいか分からず、正解を選べない場合
	内容の理解：会話を聴いて内容が理解できていない、或はテキストの中のいくつかの単語を聞き取れたが、全体の意味が分からないために、正しい答えを選べない場合
	ポイントの理解：会話を聞いて、話の流れや内容をある程度理解したが、正解に直接導くキーワード、つまり課題が示されている部分、または、正解が明示されたり、暗示されたりしている部分を聴き逃し、正解を選べなくなる場合
	選択肢の理解：選択肢の意味が分からない、或いは音韻として聞き取れても意味が分からないので正しい答えを選べない場合

下位分類とその定義	音声レベル：音の誤聴により生じた問題
	語彙レベル：単語の音を正確に聞き取れたが、意味が理解できないことにより生じた問題
	音韻・語彙総合レベル：報告する際、音をそのまま再現することができないもの。音自体が聞き取れなかった場合と音を正確に聞こえても意味が分からず報告するまでに忘れてしまったもの
	談話統合レベル：まとまりのある会話を聴いて、テキスト全体から話し手の意図や主張を理解できないレベル

4.2　聞き取れない原因の分析

被験者に特定された問題を上記の基準によって分類すると、表4のようになる。表4から分かるように、BSでは、問題点は全部で12件報告され、MSでは全部で20件報告された。母語類別の上位の各分類における報告件数は「課題の理解」が両グループとも0件であった。「内容の理解」がBSは6件で、MSは14件であった。「ポイントの理解」がBSは3件で、MSは4件であった。そして「選択肢の理解」が1件と2件が報告された。つまり、日本国内に在住する日本語学習者における聴解過程では、「課題の理解」と「選択肢の理解」による問題は聴解テストの正答率にそれほど影響が与えていないことが分かった。それに対して「内容の理解」と「ポイントの理解」は聴解テストの正答率に影響があることが分かった。さらに、下位分類を観察すると、MSには、「音声レベル」が9件、「音韻・語彙統合レベル」が8件で最も多く報告され、全体の半分以上を占めている。BSには、「語彙レベル」が4件、「音韻・語

学院院生（モンゴル語と北京語のバイリンガル話者）の2名。

彙統合レベル」が5件報告された。このことから、MSは「音が特定できない」ことが原因で、正答に至らないという問題が生じている。BSはMSに比べて、音を良く聞き取れたとしても意味を理解するまでには至らず、正答が選べないという問題が生じていることが分かった。

表4　聴解過程で特定された問題

上位分類	下位分類	BS	MS
課題の理解	音声レベル	0	0
	語彙レベル	0	0
	音韻・語彙統合レベル	0	0
	合計	0	0
内容の理解	音声レベル	1	8
	語彙レベル	2	1
	談話統合レベル	1	1
	音韻・語彙統合レベル	2	4
	合計	6	14
ポイントの理解	音声レベル	0	1
	語彙レベル	1	0
	談話統合レベル	1	0
	音韻・語彙統合レベル	2	3
	合計	3	4
選択肢の理解	音声レベル	0	0
	語彙レベル	1	0
	音韻・語彙統合レベル	1	2
	合計	1	2
合計		12	20

4.2　下位分類の分析

表4から、「音声レベル」と「音韻・語彙統合レベル」の問題がMSの正答率に大きな影響を与えており、BSには「音韻・語彙統合レベル」と「語彙レベル」の問題点が影響を与えていることが分かった。本節では、両グループにおいて音が聞き取りにくい原因と聞き取れない音の特徴を探る。

4.2.1　問題特定の「音声レベル」

被験者に特定された「音声レベル」の問題点の結果を表5にまとめた。MSが聞き取りにくい単語には以下のような特徴が見られる。

1) 単語の促音と長音の脱落が多い。また、長音が入っていない単語に長音を入れて長音化している。
2) 日本語無声破裂音の[p, t, k]を有声破裂音[b, d, g]として認識している。

表5 「音声レベル」問題特定一覧表(一部)

被験者	項目	正用の言葉	間違った聞き取り	発生した場所
MS 3	1	スカート	スガド	破裂音[k]、破裂音[t],長音
MS 6	2	アパート	デパト	破裂音[d]、母音[a]、長音
MS 3	29	方角	ほがく	長音の脱落、
BS 3	26	報告書	ほうごっしょ	破裂音[g]、促音の添加
MS 5	3	読みたい	飲みたい	半母音[j]
MS 2	4	写真の現像	写真ぎんぞ	長音、母音[e]の脱落
MS1	20	出入り	で一り	二重母音の長母音化
MS6	9	主役	しゅうしゃく	長音の添加

(注:太字と網掛け部分はバイリンガルが聞き間違った部分)

4.2.2 問題特定の「語彙レベル」

読解問題は読み返すことができるが、聴解問題は聴き直すことができないという制約がある。そのため、聞き取った音声から、瞬時に語の意味を確定し話の内容を推定していくことが難しいと考えられる。尹(2002)は、たとえ聞き取った単語が既知語であっても、聴いてすぐ音と意味を結びつけることは難しいと述べている。今回の聞き取り調査で、音声として正確に聞き取れたにもかかわらず、意味の理解に至らなかった単語には以下の特徴が見られる。

表6によると意味が分からなかった語彙はすべて漢字表記しているが、中国語との意味が全く異なる漢字語彙であることが分かった。要するに、モンゴル語・中国語のバイリンガル学習者であっても、中国語の知識は正の転移にならない。しかも下記の語彙は日本の日常生活で使用頻度が低いと思われるので、聞き取った単語が既知語であっても、聴いてすぐ音と意味を結びつけることは難しいと思われる。

表 6　「語彙レベル」問題特定一覧

被験者	項目	正用の言葉
BS 4	2	支度
BS3	4	現像
BS9	2	奇遇
MS 3	4	取引先
BS1	29	方角

4.4.3　問題特定の「音韻・語彙総合レベル」

被験者が報告するとき、聞き取れなかった音をそのまま再現することができない。音として聞こえていても意味を知らないために、報告するまでに忘れてしまう可能性がある。また単に音が聞き取れなかった場合も考えられる。これらの可能性を勘案して、被験者が聞き取れなかった単語はどのような特徴があるかを検討する。

表 7 は BS と MS のそれぞれ 6 名のプロトコルデータから抽出したすべての「音韻・語彙総合レベル」のまとめである。なお、下線部分ははっきり再現できなく、学習者が自分の母語で表現した部分で、文字は被験者が追加した音を示す。

表 7　「音韻・語彙総合レベル」問題特定一覧表

被験者	項目	正用の言葉	実際の報告	はっきり報告されてない部分
BS3	9	音量調査	音什么什么查	音量調査
BS6	12	演歌も民謡も	えんがも然后什么	演歌も民謡も
BS6	30	目覚まし時計がならなくて	目覚まし時計なくして	目覚まし時計ならなくなくして
BS2	20	予約してみないことには始まらないじゃない	予約しなくても始まる [illegible] 予約しなかったらだめ [illegible]	この文にいくつかの否定があるので、その否定を聞き取ったかどうか不明。
BS1	20	入れられない	いれない	入れられない
MS1	20	入れられない	いられない	入れられない
MS2	20	でもとにかく	でもと什么什么	でもとにかく
MS2	26	支度	した [illegible]	したく
MS6	26	取引先	とり什么鸡	とりひきさき

表 7 から分かるように、音韻的に聞き取れなかった可能性があり、意味が分からなかった可能性もある問題特定に関しては、BS と MS に共通している。それは、「項目 20」のテキストの中にある「入れられないかも」と「項目 30」のテキストの中にある「目

覚まし時計ならなくて」、そして「項目 9」の「音量調査」、「項目 26」の選択肢の中に出現する「支度」「取引先」といった単語に集中していることが分かった。BS の報告では単語を中心とするのに対して、MS は「目覚まし時計がならなく」を「目覚まし時計なくして」と動詞の活用の部分をはっきり報告できていない。

この報告の違いの背後には、母語の影響があると思われる。つまり、モンゴル語は語順が日本語と同じく SOV 型であるので、日本語と同じような類推をする可能性が高いのに対して、中国語の語順は SVO 型である。しかも、モンゴル語は形態の点でも日本語と同じく膠着語で、動詞が活用される。それに対して、中国語は孤立語で、動詞の活用がない。このことから、中国語母語者は「目覚まし時計がならなくて」を聞き取るとき、「目覚まし時計」は未知語でも覚えやすい可能性があるが、後ろに続く動詞「鳴る」が活用され「ならなくて」への変更は負担が大きいと考えられる。

上記は推論であり、客観的な論証を重ねたものであるとは言いがたいので、より一層の検証が必要である。

4.3　観察されたストラテジーの定義と分類

次に、学習者が上記の聴解過程に起きる問題特定をいかに処理し、聞き取りを成功させているかという観点から聴解ストラテジーを検証した。

本研究では、水田（1995）、尹(2001)のストラテジー分類の基準を参考にした。

水田(1995)、尹(2001)は中国人学習者を対照にし、しかも非対面での聞き取りの過程における問題処理のストラテジーに関する研究である。しかし、今回の聴解テストは、受験者が問題を聴いて４つの選択肢の中から選ぶまでのストラテジーを抽出するため、問題処理に応じて新たな観察されたストラテジーを加えた。新たに観察されたストラテジーは、「訂正」、「漢字知識に対する依存」「消去法」、「背景知識による判断」である。

また、「推測」に関しては、被験者が聞き取れなかった部分や曖昧だった部分を推測する際、さまざまな知識などを利用して推測しているか否かによって「根拠のある推測」と「根拠のない推測」に分けた。

表 8 に示しているストラテジーの分類と定義にあたって、12 人のデータを母語別に扱い、それぞれ 2 人の判定者が判定を行い、判定者の意見が一致するまで討論した。母語別判定者の一致率は 91%以上であった。

表8　ストラテジーの定義と分類

ストラテジー定義	具体例
言い換え：理解したことを自分の言葉（母語など）で言い換える。	★前面一直没说。后来说后来里面有一个很关键词他在说しょうせつ。就是小说。 前は全然言ってなかった。でも、そのあととてもポイントになる言葉、小説と言った。つまり小説（中国語で）
訂正：はじめに、ある選択肢を選んだが、後から別の選択肢へ変える。	★就是（ようやく（予約））就是，哦，怎么样预约这个，预约的时间的问题吧，关于。然后还有里面说了就是讨论了很多关于预约的问题。所以我就直接选了。就选 3 吧。他说是哪一个（土曜日）他说是不用预约（土曜日），不用预约应该是 4。 つまり、ようやく（予約）。えーと、どうやって予約、予約の時間だと思う。それから、予約に関して話していた。ですから、私は直接 3 番を選んだ。あ、彼は土曜日、土曜日は予約しなくていい。予約しなくていいなら、4 番のはずです。
根拠のある推測：聞き取れなかった語句や意味が曖昧だった語句や文をさまざまな知識を使って推測する。	★[illegible] 小说(毛说) [illegible] ([illegible]) [illegible] 小说 [illegible] CD [illegible] 二人の話から何を持ってきたか分からなかった。でも、小説と言っていることから見ると、たぶん正解は本だと思います。小説を CD などにして持ってくるわけではないと思う。
根拠のない推測：選択肢を選択するに当たって、不足部分が多く、推測ができない。そこで、ただ聞き取れたものだけを利用して選択肢を選ぶ方法。	★明日会議とりとし、我就听到这一个。然后答案里也有。所以我就选第 2 个。 明日会議のとりとし。これだけが聞こえた。選択肢の中にもそれがあったから、2 番を選んだ。
聞き流し：重要ではないと判断した情報、または部分を聞き流す。	★一开始就是这一个女的直接说要回。然后这一个男的就问她为什么要回去。她说明天还要有会（会議）然后听到这样之后面就没在听。他后面好像说一会儿还要与有一个人的什么（演奏）演奏。然后他说了一个挺遗憾的。但是这不是重要的 はじめから、女の人は直接帰るといった。男の人はなぜ帰るんですかと女の人に聞いた。それで女の人は明日会議があるといいました。ここまで聞いてから、後ろは聞かなかった。そのあと誰の演奏会があるようです。彼女は残念ですねと言っていました。でも、これは重要ではない。

注意のコントロール：キーワードや重要だと思うところに注意を払って聴いている。	★我觉得还是 2 号是对。因为他说的是、あの…仕事から通いつらいから。他问的是引っ越した理由是什么？不是ﾊﾞﾂﾄ 小什么的。ﾊﾞﾂﾄ ﾊﾞﾂﾄ 2 ﾊﾞﾂﾄ‥ 私は2番を正しいと思う。なぜなら、彼はあの…仕事から通いつらいからといいました。質問は引越しの理由についてじゃないですか。部屋の小さいと関係がない。だから、2番はただしい。
保留：聞き取れなかった部分を記憶にとどめて次に来る内容を聞き続ける。	★这个男的先说了一个どうぞ吗。给了某一个东西。所以我很快就进入这个情景。我就知道说肯定是这个男的给这个女的东西。但是这个东西不是很重要的。关键是这个东西到底是什么。 この男の子はまず、どうぞと言ったよね。何かを上げた。だから、すぐにその雰囲気に入りました。きっとこの男の子は女の子に何かを上げる。でも、そのものはそれほど重要なものではない。ポイントになるのはそのものがいったい何でしょうかということ。
漢字知識に対する依存：問題を聞いて解答を選ぶ際、全体の文脈が分からなくても、その中で、既習の漢字などあれば、それをもとに解答を選ぶ。	★没主意之前就完了。不过中间儿说那个[小说]什么的。所以应该3对。 まだ集中してないうちに終わってしまった。でも、中に「小説」なんとかいっていた。だから、3が正しいと思う。
消去法：正しくない思われる選択肢を次々と排除し、残された選択肢を選ぶ。	★反正，答案的话，1和2 是不对的，第3个デザイン的我觉得应该是，我觉得是3。 選択肢の1と2は正しくない。3 番のデザインは正しいと思う。3番のデザインは正しいと思う。
背景知識による判断：日本の文化および、社会的常識による判断	★家里的光线也好。还挺宽敞，那肯定是うるさい、所以要搬走呗。日本的房子也薄。有意见也不好意说别人 うちの日当たりもいいし、広いし、だからきっとうるさいから引越しする。日本の家も薄いし、意見があってもあんまり言わないから

4.3.1 BS と MS のストラテジー使用の異同

観察された 10 種類のストラテジーの使用比率を表 9 にまとめた。表 9 に示すように、どちらのグループにおいても、もっとも多く使用されたストラテジーは「注意のコントロール」、「推測」の中の「根拠のある推測」である。それに対して、ほかのストラテジーの使用は少なかった。

また、観察されたストラテジーの一人あたりの平均値は BS が 16.5 件、MS が 17.33 件で、聴解問題を解く過程で使用しているストラテジーの使用頻度に差異がないことが確認された。しかし、「根拠のない推測」と「言い換え」に有意差が見られた。つま

り、両グループにおいてストラテジーの使用頻度は正答率に影響を与えないことが分かった。

表 9　BS と MS の問題処理のストラテジー比較

ストラテジー	使用報告件数		一人当たりの平均		t 値
	BS(n=6)	MS(n=6)	BS	MS	
注意のコントロール	37	36	6.17	6.00	0.287
根拠のある推測	38	39	6.33	6.50	-0.191
根拠のない推測	1	8	0.17	1.33	** -2.663
訂正	3	2	0.50	0.33	0.437
消去法	5	3	0.83	0.50	0.542
言い替え	2	9	0.33	1.50	** -2.951
聞き流し	3	1	0.50	0.17	0.968
予測	3	1	0.50	0.17	0.968
漢字知識に対する依存	1	2	0.17	0.33	-0.485
背景知識による判断	4	2	0.67	0.33	1.162
保留	2	1	0.33	0.17	0.785
合計	99	104	16.50	17.33	-0.183

(** $p<0.01$)

5. 考察

本研究ではプロトコル分析を用いて聴解過程に注目し、正答率に影響を及ぼす要因を探った。その結果を劉（2011）の結果と比較すると日本語特殊拍の促音・長音、そして日本語無声破裂音の[p,t,k]においては BS の理解課程にそれほど影響を与えていないが、MS の理解課程に影響を与えていることが再確認された。一方、モーラ数が５拍以上の単語において音の脱落と母音[a]、母音[e]の混同による影響は今回の調査では見られなかった。

また、問題処理のストラテジーが正答率の差に影響を与えるかどうかを調べた。その結果、両グループの聴解ストラテジーの使用量はそれほど関係しないことが示唆された。しかし、使うストラテジーによって正答率に差が生じることが分かった。BS と MS のいずれにおいても、「注意のコントロール」が一番多く使われていることが分かった。つまり、被験者はプリクエスチョンを聞いてから、どこが重要であるかを判断し、キーワードや重要だと思うところに注意を払って聞いていることが推測できる。また、尹（2001）が指摘した通り、本論でも「推測」の中の「根拠のある推測」は多く観察された。それは、両クループともやはり言語知識が不足しているので他の既有知識などを活かして聴解問題を解こうとしているのではないかと考えられる。一方、両グループにも「訂正」「聞き流し」と「保留」といったストラテジーの使用は少

なかった。

推測の中の「根拠のない推測」「言い換え」はBSよりMSのほうが多く使用され、平均値にも有意差が見られた。MSが「言い換え」をより多く使用しているのは問題を聞いている際、耳に入ってきた単語をまず自分の母語に置き換えて、理解しようとしていることがインタビューから分かった。BSは問題を聞くとき、音を聞き取れるのが大切であるが、文の全体からその音または単語を推測していることもインタビューから分かった。このことから、MSは自分で聞き取った単語または文だけに依存し推測しているため、BSより推測に利用できるリソースが少ないと思われる。また、MSは聞き取れた情報をまず、母語の中国語に変換し、理解を深めようとしているので、情報処理面でBSと比べると手間がかかってしまうため、記憶に大きな負荷がかかってしまい、迅速に次の文を聞くことができなくなると考えられる。

さらに、本論では、「予測」と「背景知識による判断」のストラテジーも観察された。しかし、劉（2010）では「予測」と「背景知識による判断」のストラテジーは観察されなかった。尹（2002）によると、日本国内の学習者は日本の文化と社会に関する理解が海外の学習者より優れているため、スキーマの活性化が理解を促進させたためであると考えられる。つまり、日本国内の学習者は聴解の理解課程において、音から聞き取るボトムアップ処理だけではなく、文脈から理解しようというトップダウン処理もより働いていると言える。

6. 終わりに

今回の調査では中国人日本語学習者において、バイリンガル日本語学習者のほうがモノリンガル日本語学習者より聴解能力が高いことが分かった。今後、モンゴル語・北京語のバイリンガル及びモンゴル語のモノリンガルを比較し、中国語が必ず聴解過程にマイナス影響を与えるかどうかを検討したい。

参考文献一覧

尹松(2000)「聴解における先行オーガナイザーの効果について―日本語を主専攻とする中国の大学生の場合―」『人間文化論』第2号 pp.33-42

尹松(2001)「聴解ストラテジーの使用と聴解力の関係について―日本語を主専攻とする中国人大学生の意識調査の結果から―」『言語文化と日本語育』第21号pp.58-69

尹松(2002)「パターン学習は理解を促進させるか―ラジオニュースの聴解の場合―」『日本語教育』112号 pp.35-44

海保博之・原田悦子(1993)『プロトコル分析入門』新曜社

神村初美・劉永亮・柳悦・彭韵・林香淑・神谷英里・陸黎莉・十市佐和子・西郡仁朗(2010)「TMU聴解テストの開発について」『人文学報』 (428), pp.40-53 首都大学東京都市教養学部人文科学研究科

国際交流基金(2007)『平成16年度日本語能力試験　分析評価に関する報告書』凡人社

島田めぐみ（2006）「日本語聴解テストにおいて難易度に影響を与える要因」『日本語

教育』129 号 pp.1-10
島田めぐみ・侯仁鋒(2009)「中国語母語話者を対象とした日本語聴解テストにおける選択肢提示形式の影響」『世界の日本語教育』19 号　国際交流基金日本語国際センターpp.33-48
古川ちかし他(1992)「ペア形式による調査のプロトコル分析」『日本語聴解問題の改善に関す考察－最終報告書－』日本教育学会 pp.173-235
水田澄子(1995)「日本語母語話者と日本語学習者（中国人）に見られる独話聞き取りのストラテジー」『日本語教育』87 号　日本語教育学会 pp.66-78
水田澄子（1996）「独話聞き取りにみられる問題処理のストラテジー」『世界の日本語教育』第 6 号　国際交流基金日本語国際センター　pp.49-64
劉永亮（2010）『聴解テストから見た日本語学習者の理解過程に影響を及ぼす要因―「中国籍モンゴル語母語話者」と「中国語母語話者」の比較を通して―』（修士論文）首都大学東京　未公開
劉永亮（2011）「日本語学習者の理解程度に影響を及ぼす要因―中国籍モンゴル語母語話者と中国語母語話者の聴解テストを比較して―」『日本語研究』31 号 pp.49-61

（りゅう　えいりょう・首都大学東京）

附記　　【項目 2】問題内容

女の人と男の人が話をしています。男の人が引っ越しをしたのはなぜですか。

女：あら奇遇ね、こんなところで会うなんて。

男：実はつい最近すぐそこのマンションに引っ越してきたんだ。

女：そうだったの。でも前のアパート結構気に入ってたんじゃない？

男：そうでもなかったよ。部屋も狭かったし。

　　でもそれが理由で引っ越したわけじゃないんだ。

女：え、違うの？

男：うん。今度の新しい勤務先が前のアパートからだと通いづらい所になってね。

女：ああ、それは仕方ないわね。

男：すぐ見つかったし、値段の割にはいい部屋なんだ。

女：そう、良かったじゃない。もうマンションの人たちとは会った？

問題　男の人が引っ越しをしたのはなぜですか。

1．前にいたアパートが狭かったからです。

＊2．仕事場が変わったからです。（正解）

3．新しいマンションがとても気に入ったからです。

4．女の人に会いたいからです。

【項目 3】問題内容

男の人と女の人が話しています。男の人は女の人に何を持ってきましたか。

男：これ、どうぞ。

女：え？なに？

男：きのう、読みたいって言ってたじゃないか〜。

女：そうだっけ？

男：いやだなー　　忘れちゃったの？

女：あっ、そうそう、この小説の主人公のこと、テレビでやってたから、ありがとう。

問題　男の人は女の人に何を持ってきましたか。

1．CD です。

2．テレビの番組表です。

＊3．本です。

4．ビデオテープです。